

平成20年12月25日



news release

ポケットカード株式会社(8519) 平成21年2月期 第3四半期業績の概況(連結)

営業収益 292 億 6 百万円 (前年同期比 3.6%減)、経常利益 18 億 13 百万円 (同 42.0%減)

四半期純利益 13 億 14 百万円 (同 16.1%減)

ポケットカード株式会社(8519)の平成21年2月期第3四半期の業績は、割賦購入あっせん部門及びプロセッシング部門が順調に推移したものの、貸金業法改正に伴う上限金利の引き下げ等により融資収益が減少し、営業収益全体では292億6百万円(前年同期比3.6%減)となりました。

また業務全般においてコスト削減に努めたものの、金融費用の増加を主因に営業費用全体で微増となった結果、営業利益は18億6百万円(同42.4%減)、経常利益は18億13百万円(同42.0%減)、四半期純利益は13億14百万円(同16.1%減)となりました。

収入面では、割賦購入あっせん部門が、取扱高で前年同期比二桁増となったことに加え、ショッピングリボ拡大に向けた取り組みを強化したことなどにより、営業収益は54億72百万円(前年同期比24.7%増)となりました。

また前第3四半期より開始したプロセッシング部門も好調に推移しており、営業収益は18億89百万円(同108.2%増)となりました。

融資部門につきましては、利息制限法に定める上限金利内への金利移行による債権ポートフォリオの再構築並びに与信の厳格運用を進めた結果、営業収益は209億68百万円(同12.5%減)となりました。

以上の結果、営業収益全体では292億6百万円(同3.6%減)の減収となりました。

費用面では、業務全般においてコスト構造の改善に努め、販売費及び一般管理費は前年同期比で減少となったものの、割賦購入あっせん残高の拡大に伴う調達総額の増加等により金融費用が増加した結果、営業費用は、274億円(同0.9%増)となりました。

以上の結果、営業利益は18億6百万円(同42.4%減)、経常利益は18億13百万円(同42.0%減)となりました。四半期純利益につきましては当社保有株式の売却による特別利益の計上等により13億14百万円(同16.1%減)となりました。

【単位：百万円】

	営業収益	営業利益	経常利益	純利益
平成21年2月期 第3四半期連結業績	29,206	1,806	1,813	1,314
平成20年2月期 第3四半期連結業績	30,286	3,133	3,125	1,566
前年同期比	△3.6%	△42.4%	△42.0%	△16.1%

以上